

## 【小樽税務署長賞】

### 税の可能性

小樽市立桜町中学校 二年

石尾 桃子

税は、私達国民の生活を支えるためにあり、納める事が義務づけられているものだが、「税の使い方」が問題になっている。昨年十月に消費税が一〇%になり、国民の負担が増えた一方で、最近ではコロナウイルスに伴ったアベノマスクの配布が「税金の無駄遣いだ」と反対する意見が相次いでいた。どうすれば、税金を納める側と使う側の対立が無くなるのだろうか？私は、中学生なりに考えてみた。

私は「教育」を変えなければならぬと思う。関係がないように思えるかもしれないが、今、日本の社会を作っているのは大人達で、その大人達は「教育」の影響を受けて成長してきた。だから、「教育」から変えなければ社会も変わらないと思うのだ。

そして、何を変えれば良いのかも具体的に考えてみた。初めに、日本は少子高齢化が進んでいて、税金を納め、これから社会を支えていく大人自体が少なくなっているの、出生率を増やすために「子供を育てやすい環境」を整えなければならぬと思う。そのためには、より女性が働きやすく、子供を生んだ後も職場復帰しやすい環境を作る事、不足している保育施設を増やす事などが必要だ。

次に、「学習環境」を変えなければならぬと思う。これからはIT化が進んでいくので、早い段階からインターネットを利用した学習をする事が必要だ。しかし、それ以前に重要なのは「貧富の差による学力の差を生まない」事だと思う。例えば、貧しい家庭の子供が裕福な家庭の子供より限られた教材や授業でしか勉強が出来ず、学力の差ができてしまう事や、貧しい中でも自分の力で一生懸命勉強したのに、高校や大学の学費が払えないという理由で進学を諦めてしまう人などを無くさなければならぬ。また、勉強に限らず、スポーツや音楽、美術などの才能があるが「お金がない」という理由で夢を諦めてしまうのはとても残念な事だ。なので、どんな分野であれ子供達一人一人の才能を伸ばし、未来への可能性を広げるために税金が使われてほしいと思う。

今書いた事は私個人の考えに過ぎないが、これからの社会を、日本を作っていくのが子供達だということは紛れもない事実だ。教育を変えれば、税金を納める側も使う側もしっかりとした考え方を持つ人が増え、対立も減るのではないだろうか。

税は社会を大きく変えられる可能性を持った、私達の身近にあるものだ。だからこそ、「自分が納めている税は、どういう使われ方をされるべきか。」一度、考えてみてほしい。